

荒神山の山麓にゴミ処理施設 日本環境学会元会長・畑氏が意見書提出

「自然・文化・信仰を壊す計画の白紙撤回を求める」

荒神山（彦根市）のふもとに彦根愛知犬上広域行政組合は新ごみ処理施設整備計画を進めています。2月10日、日本環境学会元会長の畑明郎氏が今回の計画に対して意見書を提出しました。その「意見書」を紹介し、意見書に添付された別紙は掲載省略します。】

意見書

彦根愛知犬上広域行政組合は、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町および多賀町の新ごみ処理施設を彦根市清崎町地先に建設する計画であり、現在、環境影響評価手続きを実施中であるが、下記の諸問題があり、計画を白紙撤回することを求める。

2転3転する

新ごみ処理施設計画 2008年に彦根市石寺町に計画されたが、地盤の軟弱さと地元反対で白紙撤回された。2013年に彦根市海瀬・三津町に計画されたが、地元の反対で白紙撤回された。2016年には彦根市下西川町も候補地があがったが、撤回された。2019年に愛荘町竹原地区に計画されたが、地元の反対で白紙撤回された。その後、公募に応募した彦根市原町・下西川町・清崎町と愛荘町竹原地区の4地区から清崎町が決定され、2020年から環境影響評価手続きを実施中である。このように、候補地は2転3転しており、新規建設地を選ぶことは困難になっている。

大気汚染物質

ごみ焼却施設からは様々な大気汚染物質が排出されるが、規制されている物質は、過去に問題となったダイオキシン類、ばいじん、塩化水素、硫酸酸化物、窒素酸化物、酸化炭素および水銀のみである。別紙8。たとえば、EUでは、水銀以外のカドミウム、鉛、ヒ素、クロムなどの重金属類も規制している。別紙9。さらに、地球温暖化の主な原因物質である二酸化炭素も大量に排出する。

ごみ焼却施設からは様々な大気汚染物質が排出されるが、規制されている物質は、過去に問題となったダイオキシン類、ばいじん、塩化水素、硫酸酸化物、窒素酸化物、酸化炭素および水銀のみである。別紙8。たとえば、EUでは、水銀以外のカドミウム、鉛、ヒ素、クロムなどの重金属類も規制している。別紙9。さらに、地球温暖化の主な原因物質である二酸化炭素も大量に排出する。

彦根市清崎町 立地の問題点

自然豊かで良好な景観や重要な文化財を有する荒神山の山麓であり、大規模な人工構造物のごみ焼却場はそぐわない。別紙1〜3。とくに、荒神山神社直近であり、神社の敬虔な雰囲気や悪臭が参拝者やハイカーに不快感を与える。別紙4。また、荒神山神社参道や林道

集塵機バグフィルターでは、100%ばいじんを除去できないし、ガス化した有害物質は除去できない。また、ダイオキシン類以外の有機化合物も多数発生するが、日本では全く規制されていない。別紙10。なお、ごみの大半を占める容器包装プラスチックのリサイクル施設も計画されているが、プラスチックを圧縮処理すると、杉並病を起こした有害ガスが発生する可能性もある。別紙

提言

ごみ焼却施設はNIMBY（迷惑施設）であり、有害物質発生源であり、できるだけ作らない方が良く、やむを得ず作る場合もできるだけ小規模施設にすべきである。

ごみの徹底した分別によりごみを減量Reduceし、分別後のごみは再利用(Reuse)またはリサイクル(Recycle)する3Rが重要である。とくに、焼却すると有害物質を発生するプラスチック類の分別回収が不十分であり、改善する必要がある。

荒神山のような自然環境や歴史的文化的豊かな地域や、住宅、福祉施設、農地などに近接する地域への新規建設は中止し、既存の二つのごみ焼却施設の建て替えで対応すべきである。広域的なごみ処理体制は収集・運搬コストがかかり、不効率である。

なお、日本の環境アセスメント制度は、アメリカのNEPAなどのように建設中止ができないので、環境アセスメントと揶揄され、建設をストップできず、期待できない。

総事業費約200億円 十市道新設約38億円

ゴミ処理施設建設費は約200億円と発表。その甲良町の負担は規定に基づいて試算すると約11億7千万円にも。搬入の彦根市道計画で約38億円。4町も市道新設の負担金を負わされる可能性も。

甲良民報

2021年2月21日 813号
発行責任：日本共産党甲良町議員
連絡：甲良町在土373（西澤）
Tel：38-4949 Fax：38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。

◎日本共産党の見解を紹介し、メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp

☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123

ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】